

教育福祉常任委員会説明資料

(一般報告事項説明資料)

	(頁)
◎横須賀市教育大綱について.....	1
◎教育委員会の点検・評価結果について.....	5
・教育委員会点検・評価報告書.....	(別冊)
◎市立幼稚園の廃園に向けた取り組みの進捗状況について.....	7

平成 27 年 (2015 年) 9 月 2 日

教 育 委 員 会

◎市立幼稚園の廃園に向けた取り組みの進捗状況について

1 取り組みの進捗状況

市立幼稚園の廃園について、平成 27 年第 2 回市議会定例会での報告後、幼稚園の関係者に状況を説明した。

その後、幼稚園と調整のうえ、在園児の保護者及び地域住民を対象とした説明会を開催した。

平成 27 年 6 月 29 日	諏訪幼稚園関係者へ説明
同月 30 日	大楠幼稚園関係者へ説明
同年 7 月 15 日	諏訪幼稚園で保護者等への説明会開催
同月 17 日	大楠幼稚園で保護者等への説明会開催
同年 8 月 17 日	諏訪幼稚園で保護者等への説明会開催
同月 19 日	大楠幼稚園で保護者等への説明会開催

2 保護者・地域住民説明会での意見等

保護者及び地域住民からの意見等の多くは、市立幼稚園の存続を望むものであった。意見・質問等を大まかなカテゴリー別に分類すると、概ね次のとおり。

- ・幼小連携について
- ・認定こども園について
- ・公立幼稚園の存在意義について
- ・入園児を増やす取り組みについて ほか

意見等の要旨は、次ページ以降に記載のとおり。

3 今後の進め方について

市立幼稚園の廃園時期については、平成 27 年第 2 回市議会定例会での意見や保護者等を対象とした説明会での意見等を考慮して検討した結果、平成 30 年度末として諸事務を進めていきたいと考えている。

第1回 諏訪幼稚園（平成27年7月15日）

市立幼稚園の今後の在り方に関する保護者・地域住民説明会 意見等の要旨

1 幼小連携について

- ・定員に達しても、ゆくゆくは廃園の方向だったという説明には納得がいかない。同じ敷地内で、幼小中一貫の教育を行うことができるのはここだけなので、モデル校にしてほしい。財政的なことも分かるが、教育面ではリスクを負ってほしい。（保護者）
- ・幼小連携については、何年後に実現するという具体的な説明が一切なく不安が残った。（保護者）
- ・幼小連携を強化したいとの説明があったが、私立ではもう取り組んでいるのか。諏訪はしっかりやっているためモデル校として残せないのか。（保護者OB）
- ・幼稚園から小学校へ上がる時に環境の変化に適応できず、問題行動を起こす子どもが増えている。教育現場を心配するのであれば逆ではないか。幼小連携で、同じ敷地内でサポートしながら小学校に上げられるモデル校として、諏訪幼稚園は存在意義がある。幼小連携の成果を私立にも広げるには、時間もかかるし、手を広げるにも限界があるのではないか。（保護者OB）

2 認定こども園について

- ・市議の発行する新聞で、諏訪幼稚園を廃園する一方、3年後には認定こども園をつくとあった、同じ市役所内でありながら、認定こども園は教育委員会ではないので関係ないという印象を受けた。（保護者OB）
- ・認定こども園ができることは、横須賀の未来を考えるとよい案だと思うが、まだ認定こども園ができていない中で廃園し、私立しか選択肢がなくなることには困惑している。（保護者）
- ・幼稚園が平成29年度に廃園になった場合、31年度の認定こども園の開設まで1年間空いてしまう。経済的な理由で公立を選んでいる人もおり、1年間空くことで保育料が5倍もかかる私立に入らざるを得なくなる。幼稚園に通わずに小学校に行くことは問題もあると思う。（保護者）
- ・私立との連携の部分で、私立と公立では保育内容で相いれないところがある。こども園になってからも、保護者も園側も園児も困惑するだろう。

市では、既に開所している認定こども園の事例研究は行っているのか。

(保護者)

- ・ 諏訪幼稚園が平成 29 年度で廃園し、認定こども園を平成 31 年度に開設する場合に生じる 1 年間の空白を埋めてほしい。認定こども園の所管が市立幼稚園とは異なることは分かっているが、公立幼稚園のノウハウを認定こども園に活かしてほしい。(学校評議員)
- ・ 幼稚園の廃園から認定こども園の開設までに空白期間を作らないとしても、子どもを幼稚園から認定こども園に移行することはできないと説明していたが、ノウハウだけは移行できるということが理解できない。

(保護者)

- ・ 財政のひっ迫が一つの要因であれば、新たに数億円の税金を投じて(仮称)中央こども園を建設することは疑問である。(保護者)
- ・ 廃園は免れないにしても、(仮称)中央こども園の開園と幼稚園の廃園の間に空白期間が生じるのは、典型的な縦割り行政の弊害である。未来ある子どもを巻き込むべきではない。(保護者)
- ・ 今日の意見を行政側に持ち帰ってもらい、その結果はいつ話してもらえるのか。また、認定こども園の所管が違うということであれば、次の説明会ではこども育成部の職員も連れてきてほしい。(諏訪小学校PTA会長)
- ・ 諏訪幼稚園の廃園の問題は、(仮称)中央こども園も大いに関係するため、次回説明会では、こども育成部の出席も希望する。(保護者)

3 公立幼稚園の存在意義について

- ・ 幼稚園の存在意義を決めるのは、教育委員会なのか市議会なのか、あるいは保護者や市民なのか。その問題が抜け落ちている。(保護者)
- ・ 私立幼稚園は一般的に営利目的である。子どもを私立幼稚園に通わせたが、子どものためになった実感はない。団体行動の学びなどの点からも、公立幼稚園は存在意義があると思う。(保護者OB)
- ・ 私立の場合、年度末に保育料還付があったり、2歳児から通えることもあり、多くの母親が子どもを私立幼稚園に預ける傾向がある。公立幼稚園に通う家庭は共働きではなく、保育料の還付もないのに、幼稚園を存続させることができないならば、行政はどこに手を差し伸べるのか。

(保護者OB)

- ・保育料が安いだけでなく、子どもを伸び伸びと育てたい、営利目的ではない学校に入りたい、幼小中一貫でスムーズに移行させる安心感を得たいということで通わせたい親が多い。近くに公立幼稚園があればよいが、大楠幼稚園は遠くて通えない。公立幼稚園に子どもを入りたい母親の気持ちをどう受け止めるのか。（保護者〇B）
- ・営利目的ではないことは本当にありがたい。私は、来年、子どもを諏訪幼稚園に入園させたいと思っていたが、来年でなくなるという話をきいてやめた。幼稚園を知っていれば入りたい子はたくさんいるので、それで定員どうこうということは理解できない。（保護者〇B）
- ・現在、心疾患の園児が諏訪に在園しているが、アレルギー等の問題もあり私立幼稚園に入園を断られた。障害や国籍に関係なく入れる公立幼稚園はよい。廃園後は、そのような子の受け皿はどうするのか。（保護者）
- ・子どもは心疾患を抱えている。他の幼稚園では、心疾患の園児を扱ったことがない等の理由で入園を拒否された。市内にも心臓に病気を持つ子どもがたくさんいるが、市立幼稚園に受け入れてもらえたことは嬉しかった。小学校の支援級は、先生1人に対し30人の生徒をみる環境であるため、小学校から入った場合、子どもが急に適応できない。私立幼稚園を充実させるといっても、病気を持つ子どもたちはどこに行けばよいか紹介してもらえるのか。そのような環境が整備されていない中で、廃園することは不安がある。（保護者）
- ・私立幼稚園のように、讃美歌を毎日歌って、先生の言うことを黙って聞くことが、子どもたちに将来役立つとは思えない。私立は営利目的であるため、特色を出して園児を集めるが、公立幼稚園だからこそできる1日の過ごし方がある。それは、諏訪幼稚園の先生方の努力の成果だと思う。（保護者〇B）
- ・存在意義がなくなり廃園とするのであれば、同様に営利目的でやっている私立幼稚園に出している援助も廃止すべきである。（保護者〇B）

4 入園児数を増やすための取り組みについて

- ・入園児数が、休園条件の21名を下回らないよう保護者は奔走してきたが、子どもの人口が多い時代に決めた条件なので見直しが必要だった。また、定員を満たしていた場合でも廃園の方向だったという事実が、こちらに

伝わっていなかった。21名に足りない人数はわずかであり、今後、高層マンションも建設されるため、廃園ありきではなく、入園者を増やす努力をすべきである。（保護者〇B）

- ・私立幼稚園に人が流れているのは、3年保育だからだと思う。公立幼稚園も3年保育にすれば人が集まるのではないか。（保護者）
- ・市が、どうすれば園児を集められるのかという努力をしないで廃園することは納得いかない。幼稚園を民間事業と考えるならば、もっと早く最善の努力をすべきだった。市も幼児教育が大事だと考えていれば予算をつけるはずである。（保護者〇B）
- ・神奈川新聞の記事を読んで、入園をあきらめる人がいれば、さらに人数が減ってしまう。もし幼稚園を存続させる可能性があれば、訂正記事を出してもらうべきである。（保護者〇B）
- ・定員割れ対策として、市の広報に幼稚園を写真つきで紹介するなど、とり得る対策はあったはずだが、そのような提案もないまま今日まできている。（保護者）

5 運営コストについて

- ・神奈川新聞の記事で、廃園までに総コストが年間運営費と合わせて4億6,400万円に上るとあったが内訳を教えてください。また、財政の無駄との指摘には教育委員会もそのように考えているのか。廃園コストに、建て替え費用が含まれているならば、建て替えを正当化すべく幼稚園を存続すべきではないか。
- ・園児数が定員（50人）を満たしていれば、建設コストや今後の運営コストはペイされると考えているのか。（保護者）
- ・この幼稚園は、保護者や先生がリサイクル活動などに取り組んでいるため、お金のかからない幼稚園だと思う。それにも関わらず、神奈川新聞で莫大な金額が書かれ、教育委員会は抗議すらしていない。また、この場で教育委員会が廃園コストの根拠を示すことができないのも納得できない。（保護者〇B）

6 その他

- ・保育園に子どもを入れ、子どもを見ないで育ててしまっている人がいることは悲しい。（保護者）

- ・新聞の記事（6月13日）では、諏訪幼稚園だけが定員を割れし、大楠は定員を割れていないような書かれ方をしているのはなぜか。（保護者）
- ・国に一千数百万円を返還しないですむよう、幼稚園を存続するという考えはないのか。（保護者OB）
- ・市立幼稚園と私立幼稚園は違うと思う。なぜ市立幼稚園をなくす必要があるのか。並行しながらやっていけないのか。（保護者）
- ・今回の説明会の声はどこまで届くのか。廃園ありきで、形だけこのような会を設けているのであれば、この声がどこかでシャットアウトされてしまうと思う。（保護者OB）
- ・街中に住んでいる方は経済的に豊かな人ばかりではないため、街中に幼稚園があることはすばらしい。（保護者OB）
- ・近年のニュースを見ていると教育はあらためて大事だと感じる。（保護者OB）
- ・廃園が決定かどうかの1点だけ確認したい。ぜひ諏訪を残すために努力してほしい。（保護者OB）
- ・横須賀市の幼児教育の将来像について聞きたい。（保護者）
- ・我が家の子ども4人のうち3人が諏訪幼稚園でお世話になり、本当に素晴らしい幼稚園で感謝している。4番目の子ども、ぜひ諏訪幼稚園に入れたと思っている。（保護者）
- ・今回の説明会により、少し廃園について分かってきた。（保護者）
- ・長い歴史のある諏訪幼稚園の今後について、9月の議会で決めるというのに7月の夏休み間際に1回目の説明会を開くというのは乱暴ではないか。説明会までの準備期間が短く、すわ会の意見のとりまとめ等も十分にできなかった。
- ・教育はすぐに結果が見えるものではないため、お金には換算できない。何を持って無駄としているのか。（保護者）
- ・現状の説明では、全く廃園について納得できない。このような態度をとる教育委員会の統括する小中学校の教育にも不安を感じている。（保護者）
- ・すわ会でアンケートをまとめたので、行政側で一読してほしい。（保護者）
- ・今日の説明で分からない部分については、一両日中に文書で質問をする。

本日の欠席者や次回出席できない方のために、回答は文書でいただきたい。（保護者）

第1回 大楠幼稚園（平成27年7月17日）

市立幼稚園の今後の在り方に関する保護者・地域住民説明会 意見等の要旨

1 幼小連携について

- ・幼小連携について、幼稚園と小学校が隣接するこの地域をモデルケースとして残せないのか。市全体に広げるというマクロの取り組みも大事だが、並行して地域の密接なつながりも深めてほしい。（保護者）
- ・幼小連携は継続するとのことだが、まずは私立幼稚園がどこまで小学校と連携できるのか証明をしてから、廃園をすべきではないか。（保護者）

2 認定こども園について

- ・大楠周辺では、太田和の保育園が認定こども園になったが働いている親が対象。（保護者）
- ・認定こども園を開設するのであれば、この施設を使いながら、質の高い教育を行おうとは思わないのか。（保護者）
- ・大楠幼稚園を認定こども園にすれば、愛児園（保育園）に通えない家庭も助かるのではないか。（保護者）
- ・施設をそのまま幼稚園として使えないのか。市立幼稚園の運営が赤字ならば、逆に新たに認定こども園をつくりお金をかける必要はないのではないか。（保護者）
- ・認定こども園を希望する私立幼稚園は少ないのではないか。むしろ、こども園としてではなく、幼稚園として続けていこうという考えはないのか。（保護者）
- ・認定こども園の実際の保育内容について教えてほしい。（保護者）
- ・認定こども園をつくるのではなく、延長保育を始めてはどうか。（保護者）
- ・大楠幼稚園が、将来的に認定こども園になる可能性はゼロなのか。（保護者）
- ・廃園後に、認定こども園として残すというために私たちができることはないのか（保護者）。

3 公立幼稚園の存在意義について

- ・新制度に移行し、保育料が所得に応じた応能負担となっても、市立幼稚園に通わせたい家庭はいると思う。（保護者）
- ・赤字運営が要因ならば、保育料を上げてでも通わせたい母親は多いだろう。下の子も通わせたいと思っているので、廃園は考え直してほしい。（保護者）
- ・市立幼稚園に通う家庭は主婦が多いので、通わせられる施設に限られる。（保護者）
- ・自衛隊の官舎に住んでいるが、官舎の住人もほとんど市立幼稚園の存在を知らない。他市のようにトップページにバナーを貼るなど、広報に力を入れるべきである。公立か私立か選べないということは、市にとってデメリットではないか。（保護者）
- ・うちの子は、障害があり私立幼稚園で入園を断られた。大楠幼稚園に通わせてもらい、とても成長した。教職員も、ひまわり園（療育施設）で研修をしていると伺った。ひまわり園も定員超過と聞いたので、軽い障害の子の受け皿として残すことも摸索してほしい。（保護者）

4 入園児数を増やすための取り組みについて

- ・定員割れが廃園の要因ならば、市立幼稚園を3年保育に延長することで入園希望者が増えるのではないか。（保護者）
- ・3年保育にすべきである。大楠幼稚園に入れたかったが、仕事の都合で3年保育の私立幼稚園に入れた友人がいた。自分も主人も大楠幼稚園出身なので、ぜひ残してほしい。（保護者）
- ・自分の子どもを通わせたいため、定員オーバーになり抽選にならないよう、母親同士では大楠幼稚園の宣伝をしていない実情がある。（保護者）
- ・廃園する前に、市は、入園案内などの広報をもっと積極的に行うべきではないか。（保護者）
- ・廃園を前提とした説明にしか聞こえない。市ではアンケートを実施するなど人口を増やすために熱心だと思ったが、廃園することは子育て世帯の選択肢を狭める逆行したものである。廃園する前に、どうすれば園児が集まるか広報活動等を見直すべきである。（保護者）

5 私立幼稚園の保育料負担について

- ・ここから通える範囲の私立幼稚園の保育料だと、私学就園奨励費を受けなくても2年間で2倍の保育料がかかる。低所得者はどうすればよいのか。
(保護者)
- ・廃園と同時に、低所得者向けの支援も検討すべきではないか。保育料が高くて私立に通えない子どもは家にいろということなのか。(保護者)
- ・私立幼稚園を勧めておきながら、所得の問題で通えない家庭を放置するのはいかがなものか。市は義務教育ではないところには力を入れないのか。子育てに力を入れている親の賛同を得て、幼稚園があるべきだと考えないのか。(保護者)
- ・幼稚園難民の子が出るだろう。お金がない子どもを家に閉じ込めて育てることにならないか。(保護者)
- ・うちは、低所得だが4人の子どもがおり、助成を受けても金銭的に厳しい。設立の趣旨が、私立に通えない子の受け皿ならば、我が家の子の受け皿となってほしい。(保護者)

6 廃園の時期について

- ・市全体では子どもが減っているが、大楠小学校の1年生が2クラスから3クラスに増えた。なぜこのタイミングなのか。(保護者OB)
- ・平成9年から10年の検討経過から、大楠幼稚園には休園の基準となる具体的な入園児数はないということではよいのか。また、市立幼稚園の廃園については、2園どちらかだけ存続するということはないのか確認したい。(保護者)
- ・大楠幼稚園の廃園を少し待ってほしい。大楠地区は小学1年生が2クラスから3クラスに、中学校もあと4人で3クラスに増えるところだった。幼稚園も追従することは間違いない。市長は人口流入や子育てをスローガンにしており、廃園はメリットにはならない。(自治会会長)
- ・市立幼稚園が廃園されるなら、今年の10月に3年保育の私立幼稚園に通わせなければならないので、いつ確定するのか知りたい。(保護者)
- ・下の子を再来年度に入園させるつもりだったが、募集しないのであれば、急いで9月までに私立幼稚園を決めなければならない。体験入園をして、子どもに合った幼稚園を探す時間もない。(保護者)

7 市の施策との整合性について

- ・湘南佐島なぎさの丘の販売ホームページでは、幼稚園、小学校、中学校が全て隣接し、子どもに豊かな教育環境であると記載があった。それから3年足らずで廃園することはありなのか。廃園が決まったら、何年後に廃園と記載するのか。あるいは削除をして済む問題なのか。（保護者）
- ・吉田雄人市長や、小泉進次郎衆議院議員も、横須賀の風は西から吹いていると言っていた。西地区は、若い世代がどんどん流入し人口も増えている。また、市は「子どもが主役になれる街よこすか」を標榜し、冊子も発行している。今回の説明や意見を双方が持ち帰り、今後の検討につなげるという意味では、有効な時間を共有することができたのではないか。（学校評議員）

8 その他

- ・子ども・子育て支援新制度について、詳しく教えてほしい。（保護者）
- ・市立幼稚園は、地域の皆さんの力があってこそ、ここでやってこられたのではないか。（保護者）
- ・武山の保育園に通っている母親からは、母親の仕事がお休みの日は、子どももお休みにしなくてはいけないと聞いた。できれば子どものリズムに合わせて毎日遊ばせたい。（保護者）
- ・三浦や葉山の幼稚園に通わせても、小学校で離ればなれになるため、親交や連携が途切れてしまう。（保護者）
- ・子育ては、採算ベースで考えるべきものではない。議員定数等を削減するなどお金の使いどころを考え、子育て関連の予算を削減すべきではない。（町内会会長）
- ・この地域は、住民同士の絆が強く、毎年お祭りのたびに仲間が増えていく。子どもが増えている地域の幼稚園をなくすのは理解できない。（保護者）
- ・幼稚園児とお年寄りの集いでは、お年寄りの表情がとても明るくなる。幼稚園は、地域を明るくしてくれる存在である。（学校評議員）
- ・大楠幼稚園を廃校することにメリットはない。自治会長として市と話す機会があるので、根気強く伝えていきたい。（自治会会長）
- ・大楠地区は、幼稚園が1つしかない。震災のあった時とか迎えに行け

る範囲を考えると必要である。(保護者)

- ・大楠幼稚園の廃園後は、旧税務署のように建物が空っぽになるのではないか。それならば、このまま幼稚園として存続してほしい。(保護者)
- ・廃園が決定のような説明に聞こえる。(保護者)
- ・廃園を決める会議に私たちは参加できない。自分の子どもが通っていない人たちが決めてしまう。ぜひ保護者の意見を会議で伝えてほしい。(保護者)

第2回 諏訪幼稚園（平成27年8月17日）

市立幼稚園の今後の在り方に関する保護者・地域住民説明会 意見等の要旨

1 認定こども園について

- ・ 前回、諏訪幼稚園の廃園と、（仮称）中央認定こども園の開園の間の空白の1年間についても、園児募集し、その子をこども園に移行してほしいと言ったが、それは叶えてもらったのか。（学校評議員）
- ・ 幼児教育は廃園で終わるかもしれないが、子育てはずっとつながっていくものである。こども園につなげることが一貫性になると思う。横須賀市が教育に熱心に取り組めば、若者は流出しないのではないか。（保護者）
- ・ （仮称）中央認定こども園は経営が悪化しないという保証があるのか。また財政の問題で2～3年で廃止すれば、諏訪幼稚園の繰り返しになる。（保護者）
- ・ （仮称）認定こども園については、人気は殺到し入れないのではという不安がある。どれくらいの規模の施設になるか概算で教えてほしい。（保護者）
- ・ 障害児の受け入れについては簡単にできるものではない。自閉症やアスペルガー等目に見えない障害のある子の受け入れは公立にしかできない。もし、（仮称）中央認定こども園に移行するならば、先生のトレーニングが必要である。（保護者）
- ・ 諏訪幼稚園は、短期間しか日本にいないため私立で入園を断られた外国籍のお子さんがある。諏訪幼稚園では、そのような子どもに対しても、日本人と分け隔てなく指導している。そのような先生を養成するには3年間では足りない。公立保育園に在籍する保育士も優秀だとは思いますが、経験豊富な市立幼稚園の先生を採用してほしい。教育にお金をかけるのが一番大事である。（保護者）
- ・ （仮称）中央認定こども園の入園については、働いている方が優先とのことだが、現在、諏訪幼稚園は40名程度なので、定員20%増しの部分で入れないものなのか。（保護者）
- ・ こども育成部からの説明を聞く限り、空白の1年間（諏訪幼稚園の廃園と（仮称）中央認定こども園の開園の）がなくなっても安心できないという印象を受けた。しかし、認定こども園について何も知らなかったの

で、だいぶ見えてきたことは感謝したい。（保護者）

- ・（仮称）中央認定こども園のカリキュラムについて、保育士でプロジェクトチームをつくって検討しているそうだが、その中に幼稚園教諭も入るのか。（保護者）
- ・諏訪幼稚園のカリキュラムを、こども園にも提示していくという話だったが、現時点の進捗状況を教えてほしい。あるいは今後検討していくのか。（保護者）
- ・（仮称）中央認定こども園では、保育士が全ての保育を行うのか。あるいは幼稚園教諭も入るのか。（保護者）
- ・（仮称）中央認定こども園では、保育士と幼稚園教諭の両資格を持った職員が指導にあたるというが、資格だけで実践経験がない方では困る。そのため、諏訪幼稚園を存続し、資格取得者が実践経験を積む養成園にしてはどうか。（保護者）

2 横須賀市施設配置適正化計画について

- ・施設配置適正化計画では、市民と行政が知恵を出し合うと明記されているが、そこに市民はいないのではないか。（保護者）
- ・去年の市長の車座会議でも、廃園ありきのスケジュールではなく、地域ニーズを聞きながら、公立幼稚園の在り方を検討するとの話だったが、いつの間にか3年後に廃園という話になっていた。もしお金がないのであれば、先ほど園長について、小学校校長と兼務する話が出たが、そのような見直しを行うべき。また、検討会を今後立ち上げる考えはあるのか。（保護者）
- ・施設配置適正化計画では、公立幼稚園の在り方については、長い時間をかけて検討するということだったが、蓋を開ければ、最短3年という話になっており、これまでの横須賀市や教育委員会の進め方に不満を感じる。（保護者）
- ・市立幼稚園の廃園について、我々は丁寧に説明を受けているという印象はない。施設配置適正化計画でも、分野別実施計画を策定する段階では、市民とよりよい方向で検討していくとある。幼稚園の分野別実施計画はあるのか。（保護者）
- ・実施計画を見れば、安心して諏訪幼稚園を閉園できる具体的なものが盛り込まれているのか。（保護者）

- ・施設配置適正化計画では、分野別実施計画策定の段階では、市民の声も入れるとあるがその予定はあるのか。市民と行政が知恵を出し合い、よりよい施設の在り方を検討する場を設けるとあるが、これはやらないということか。（保護者）
- ・美術館のように非日常ではなく、幼稚園は日常で市民に密接である。これから市民の声を取り入れないのか。（保護者）

3 幼小連携について

- ・これから私立幼稚園選びをする上で、諏訪幼稚園と同じような幼小連携をしているかどうかは選ぶ指針になるので、具体的な学校名を書面で提示してほしい。また、幼小連携について、季節ごとに時系列などで具体的な内容を示してもらえると安心できる。諏訪幼稚園の良さが引き継がれるか不安である。（保護者）
- ・小1プロブレムは諏訪小学校でも起きている。（保護者OB）
- ・文科省では、年長児を義務教育化する動きがあると思う。そのために諏訪幼稚園は理想的な環境であり、そのまま義務教育化すべきではないか。廃園の動きは政府方針と異なるもので理解できない。（保護者OB）
- ・本当に小学校から幼稚園に投げかけて、問題のある子を細かく対応してくれるのか。どのように学校に徹底するつもりなのか。（保護者）
- ・諏訪幼稚園は、小学校の生徒が気軽に来られ、縦のつながりが自然に生まれる理想的環境である。ここで廃園するとモデルケースがなくなり、横須賀の魅力の一つが欠けていることになる。教育委員会が、幼小連携を一番願っていると思うが、考え方を聞かせて欲しい。モデルケースとして、残す考えはないのか。（保護者）
- ・自分の子どもが私立幼稚園に通っていたが、幼小連携は行っていなかったと思う。年1回程度の交流では連携とはいえない。（保護者OB）

4 運営予算・補助金について

- ・市としては予算の問題で存続の考えはないと思うが、委員会としても何もしないで廃園するわけにはいかないのだと思う。園長を校長と兼任するなど予算をうまく考えて、諏訪幼稚園を存続させてほしい。（保護者OB）
- ・諏訪幼稚園の建て替えで国から受けた補助金について、返金しなくても

よい時期まで延期するという方法はないのか。(保護者)

5 その他

- ・市立幼稚園を廃園した場合、支援を要する幼児の行き場がなくなることについてどう考えているのか。(保護者)
- ・子どもたちが幼稚園がつぶれると言っているのは悲しい。できれば、廃園ではなく、認定子ども園に統合された、残っていると伝えたい。どうすればこういう気持ちを市議に伝えられるのか。(保護者)
- ・市立幼稚園について、廃園するのではなく、横須賀総合高校のように市立を統合して残すという方法はないのか。(保護者)
- ・どうすれば廃園ではなくなるのか聞きたい。(PTA会長)
- ・これまで、廃園ありきの説明を受けてきたが、市民に説明のないまま、9月の市議会では何を決めようとしているのか。(保護者)
- ・諏訪幼稚園は、市の施設の中で重要なものであると認識してほしい。在園児が減ったのは、少子化と、民間優先の立場から大々的に募集できなかったからだと思う。(保護者)
- ・入園希望者はずっと少なかったのではなく、廃園の話があったから、急に入園希望者が減ったのであり、廃園の理由にはしてほしくない。(保護者)
- ・横須賀市としても、この説明会に出席しているような幼児教育に熱い思いのある保護者を育てていかなければいけないのではないかと。8月21日の教育委員会定例会に、廃園しないよう陳情をしたい。(保護者)
- ・私たち保護者は、今後どのようなスケジュールの中で、いつ、どのような行動を起こす必要があるかを知りたい。(保護者)
- ・これまで、横須賀市内部でどのように議論し、誰が賛成または反対したのか。廃園に至った理由を知りたい。閉園ありきで、あとは仕方ないと言われている気がする。(保護者)
- ・既に、廃園をやめてほしい段階でないことは皆分かっているが、この問題の被害者は子どもであり、今後横須賀市から若者の流出が加速しておかしくないか心配している。(保護者)
- ・親が2極化しており、子育ては面倒だと2～3歳で私立幼稚園に子どもを預ける親、もう一方は、公立幼稚園に入園するまでは自分で面倒をみ

て、幼稚園では団体生活を学ばせたいという親。諏訪には、小学校の先輩を見ながら、小学校にあがるという素晴らしい環境がある。（保護者〇B）

- ・時代のニーズに合わせ市立幼稚園を廃園し、認定こども園をつくるということだと思うが、今の在園している子どもの行き場がなくなることはないよう考えてほしい。また、諏訪幼稚園の保護者のように、手をかけて子どもを育てたいお母さんが少なからずいることを大事にしてほしい。（保護者）
- ・市立幼稚園の廃園案が、そもそも市民の声を無視して決定したものではないのか。（保護者）
- ・我々が廃園を阻止するよう動けば、汲んでもらえる可能性はあるのか。（保護者）
- ・教育委員会で議案が可決されるまで、私たちにスケジュールが示されないのはおかしい。予算でもなんでも案があるはずなので、それを知りたいと言っている。（保護者）
- ・前段で廃園の方向に向かっていくという話が私たちにはなかった。説明してくださいと言って説明会が開かれた。市民のニーズがどこにいったのか。今後も、こども園の開園や幼稚園の廃園の中で、何か起きて、私たちが行動を起こしても手遅れになる。これまでのことは仕方ないかもしれないが、今後、どうすれば市民の声は反映されるのか知りたい。（保護者）
- ・市民の声を取り入れないスタイルは今後も変わらないのか。民間企業ならば、顧客にニーズに応えるために改善する。教育委員会として、努力とか誠意とかを見せるという考えはないのか。（保護者）
- ・入園児が自然に減ったのではなく、保育料の値上げが、定員割れの要因ではないか。諏訪幼稚園の確約書には、保育料の値上げのことは書かれていない。（保護者）
- ・保育料の値上げした年だけでなく、翌年以降も、保育料が高止まりしている以上、高い保育料が入園を敬遠する一つの要因になっていることは否定できない。民間企業ならば、保育料を値下げし、それでも宣伝等で園児を増やす努力を先にするはずである。（保護者）
- ・今日の説明会を受け、8月の教育委員会定例会で反映すると言うが、どう反映するのか分からない。また、今後の説明会の日程については、市

民の声を反映して検討してほしい。(保護者)

第2回 大楠幼稚園（平成27年8月19日）

市立幼稚園の今後の在り方に関する保護者・地域住民説明会 意見等の要旨

1 認定こども園について

- ・大楠幼稚園という名称がなくなるが、その後、認定こども園をつくり、新たに通う施設ができるということか。（保護者）
- ・太田和の認定こども園は、働いている親の子どもしか受け入れしておらず、現状では何も変わっていないのではないか。太田和認定こども園は、まだ1号認定されていないということか。（保護者）
- ・太田和認定こども園では、今年の入園募集も母親が働く人が優先なので、定員がいっぱいになると入れない。大楠、武山は保育園が少ないので、大楠を廃園するのであれば、認定こども園にして、子どもを育てやすい街をつくっていくのはどうか。一緒に話し合ってもらいたい。（保護者）

2 廃園の時期について

- ・前回の説明会では、3年保育に申し込めるように9月までに決定すると言っていた。急に廃園と言われても幼稚園を探す時間がない。それは変わらないか。（保護者）
- ・廃園をもっと早く教えてくれれば、他の幼稚園の体験保育をする時間があつた。（保護者）
- ・廃園は決まっているのか。前回の説明会では、今年の11月には入園募集をするが、来年の募集はないとのことだったが、それは決定なのか。（保護者）
- ・私は、公立と私立の幼稚園があり選択肢が豊富な点に惹かれて川崎から転入した。そういう人がいることも考慮して、廃園スケジュールを検討してほしい。（保護者）

3 市の施策との整合性について

- ・子育て支援施設を廃止することは、市長の言う「住みよい街」「選ばれる街」と逆行していると思う。縮小という形でもよいので廃止すべきではない。（町内会会長）
- ・「住みよい街」、「選ばれる街」とは、若者が選んでくれる街だと思

う。今、西地区は、まさに選ばれている。大楠地区は、連合町内会も一体となり人口を増やそう、住みやすい街にしようと努力している。新築の造成も増えているのに、「選ばれる街」の要素である幼稚園や青少年の家をなくす理由が分からない。断固として反対である。(町内会会長)

4 その他

- ・教育委員会は、人数が減ったという事務的なことだけで廃園しようとしているのではないか。これまでの保護者の努力や積み上げてきたものにも目を向けて、ぜひ幼稚園を存続すべきである。(保護者)
- ・諏訪幼稚園の休園条件と大楠の休園条件は異なるのに、一緒にされているのではないか。西地区は子どもが増えているので、大楠幼稚園だけでも残すべきである。諏訪幼稚園の近隣には、(仮称)中央こども園ができるので不平等である。(保護者)
- ・応募数が2年連続で21名を下回った場合という、諏訪幼稚園の問題協議委員会が決めた話の中には、大楠幼稚園も含まれているのか。(保護者)
- ・幼稚園の廃園というよりは、横須賀市全体の施設の見直しの一環ということだろう。市が持っている人口推移などのデータを提示すれば、説明会の出席者も納得するのではないか。(町内会会長)
- ・城北幼稚園で体験保育をしたが、とても子どもを連れて迎えにいける道ではなかった。震災対策の検討をしてから、廃園を考えるべきである。(保護者)
- ・保育料の値上げなど、入園児が集まりにくい状況にしているのは教育委員会自身ではないか。(保護者)
- ・大楠幼稚園は、諏訪幼稚園に比べて幼稚園の先生が年度によっては少ないのではないか。(保護者)
- ・廃園の問題が起きる前に、行政と地域の方による話し合いの場があれば、違う状況になったと思う。結論ありきという印象を受ける。横須賀市は、転出超過であるため、子ども施設や老人施設の見直しは慎重に検討すべきである。西地区の今後のプランが見えていない中での話し合いは不安を感じる。(保護者)
- ・議会に公立幼稚園を廃園する議案を提出したということは、横須賀市民

のためであって、この地域住民のメリットは考えていないのか。（保護者）

・7月定例会では、教育委員に報告されているが、反応はいかがだったのか。（保護者）

・今回の説明会の内容は、どの程度まで町内会員に知らせてよいのか。
（自治会会長代理）

・大楠地区の住民も市税を払っており、横須賀市の発展に貢献したいと思っているので、そのことを市長にぜひ伝えて欲しい。（町内会会長）

・資料に、議会での反対意見は少数だったとあるが、ほとんどの議員が廃園に賛成だったと認識されるとそれは違う。色々な課題があるという話だった。西地区は、今後人口が増加する可能性が高いにもかかわらず、幼稚園を廃園するのはどうかと。多くの議員も、もう少し考える必要があると言っていた。（市議）

・大楠幼稚園の跡地利用については、認定こども園にするとか、愛児園に入ってもらって継続するなど、そういう検討も必要だと思っている。
（市議）